

# 社会実装を考慮した革新的環境回復技術開発の検討 Development of Innovative Environmental Remediation Technology considering Social Implementation

## 目的 Purpose

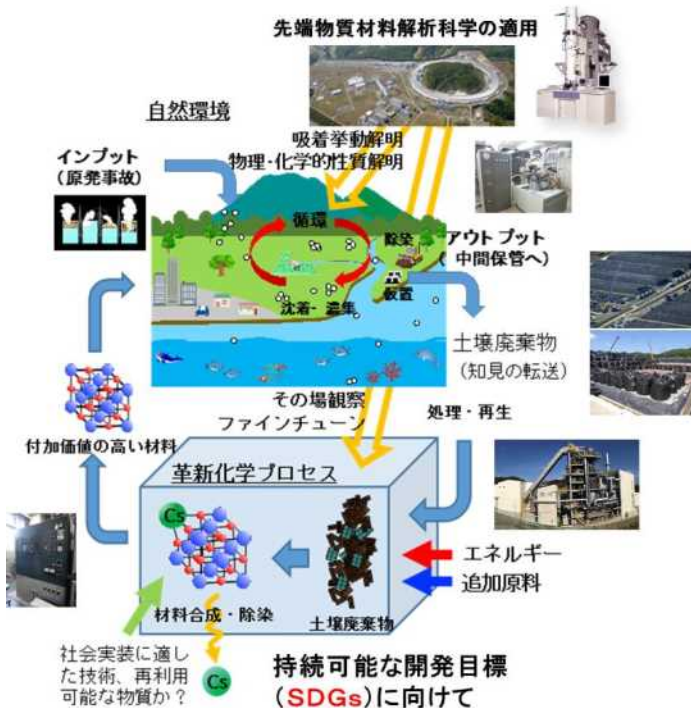
- ・ 福島環境回復に資する制御型物質循環システムの構築
- ・ 理工学分野と社会科学分野との融合に立脚した安全、安心社会の確立
- ・ Establishment of material circulation system for environmental recovery in Fukushima
- ・ Construction of safety and security society from integration among science, engineering, and social science

## 概要 Outline

- ・ 環境調和型処分再生利用に向けた化学プロセス及び物質循環システムの検討
- ・ 環境回復技術の社会実装を考慮した最適化への提言
- ・ 極微量放射性元素の挙動に関する先端物質材料科学による検討
- ・ Novel chemical process and material circulation system for environmental-friendly treatment
- ・ Optimization of environmental recovery technology considering social science
- ・ Advanced material science analysis for behavior of trace radioactive elements

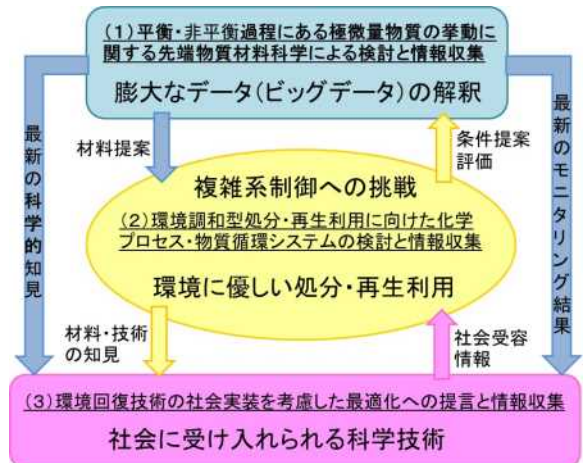
## 福島環境回復における制御型物質循環の概念

Concept of material circulation system for environmental recovery in Fukushima



## 連携協力体制

Fusion of various research fields



(1) 平衡・非平衡過程にある極微量物質の挙動に関する先端物質材料科学による検討と情報収集:

NIMS、KEK、筑波大学、AISTを主として、JAEA、北大、電中研、農研機構、千葉科学大と連携

(2) 環境調和型処分・再生利用に向けた化学プロセス・物質循環システムの検討と情報収集

AIST、筑波大学、NIMSを主として、北大、法政大、東京都市大、宮崎大、JAEA、国環研、電中研と連携

(3) 環境回復技術の社会実装を考慮した最適化への提言と情報収集

東大、AISTを主として、東京電機大、農研機構、電中研と連携

## 今後の展望と課題

- ・ 事故に伴う放射性セシウム等による汚染廃棄物処理研究において、基礎から応用、社会実装まで分野横断型の十分な連携を礎に土壤等廃棄物の除染、減容化、再利用技術開発に取り組む。
- ・ 地球環境問題対策において、環境立国日本として世界に強くプレゼンスを示す。